

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472800374
法人名	有限会社 三輝
事業所名	グループホーム 加美
所在地 (電話番号)	〒981-4211加美郡加美町上狼塚字東北原112番地238 (電話) 0229-64-2280

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 3 月 13 日

【情報提供票より】(平成21年2月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 10.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	水光熱費10,500 円
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 17 円
	1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(2 月 22 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 伊藤医院 内田歯科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の広がる閑静な住宅の一角にあるこのホームは開設して6年目を迎える。管理者の思いは入居者の気持ちを引き出し、コミュニケーションを多くとり笑顔のあるゆったりしたホームを作りたいとし、職員と共にその思いを踏まえケアにあつており、入居者の表情も明るい。地域住民に理解が得られないままスタートし、ホーム側も地域交流に向けて努力し、相互の行事に参加したり、キャラバンメイトの研修を受け、地域に向けて認知症についての講演をしている。利用者1名(利用者定員3名)のデイサービスを受け入れたり、田尻町にある認知症専門医療機関を利用しより良いケアに取り組むとしている。職員の育成教育と労働条件の向上に力を入れ、資格取得の際は介護福祉士は1万円、介護支援専門員は3万円を毎月支給している。加美郡一円のグループホーム連絡協議会の発足の話や、緊急時の受け入れ要請があり、今後できる範囲で協力体制を整えていくとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①地域生活の継続と関係性を加えた事業所独自の理念を4項目掲げ見直し作成している。②2か月に1回の運営推進会議が開催されている。③重要事項説明書に苦情相談受付担当が記載されている。④「最後の看取り」に関する指針が成文化し作成されている。⑤災害対策の備品、備蓄が整備され改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票に全職員が記入し管理者がまとめて作成した。その自己評価票の結果を全職員に渡しているが改善課題については、外部評価を含めて今後話し合っていくことにしている。課題については全職員が前向きに取り組んでいきたいとしている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回、家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、町役場職員のメンバーで開催されている。ホームの状況報告や、意見、要望を受け入れ双方向的な会議となっている。家族の参加の呼びかけを工夫し、入居者、地域住民の参加も交え、和やかな雰囲気の中で意見、要望を引き出し、サービスの向上に努めたいとしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎年、事業所独自の家族アンケートを実施し、回収率もよくおおよその方が満足しており、意見、要望は特になく、感謝の言葉が多い。毎月請求書、写真、手紙を添えて送付し、支払は家族がホームに来所され、その際に話し合いを持ち意見、要望等を聞いている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に特別会員として加入し会費を納めている。近隣との理解も得られるようになり、挨拶を交わしたり、ホーム便り、年3回約170部を町内会を通じて各家庭に配布している。敬老会、地区のお祭り、ホームの行事(いも煮会など)相互に参加交流している。今後ボランティアの協力要請や地区の小学校に働きかけ積極的に地域に関わり交流していくとしているが進みすぎると近隣住民に拒否反応が出るので少しずつ着実に前進させるように意図している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し「輪一季節を味わい、地域とのふれあいを大切にします。」と地域生活の継続と関係の強化を加えた事業所独自の理念を4項目掲げ改善し取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	これまでの理念を見直し職員全員で話し合い作成したので理解している。記録等で使用している和室にその理念を掲げ、確認し合うことで共有し日々の取り組みとなっている。		
このたび、					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には特別会員として加入し会費を納めている。近隣との理解も得られるようになり、挨拶、会報(年3回発行、170部)を町内会を通じ戸毎に配布したり、野菜や花のやりとり、ボランティア(佳徳会、日本舞踊)が来ている。近隣の小学校の行事の参加又は見学、地区の夏祭りへの参加を検討している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票に職員全員が記入し、それを管理者がまとめ作成した。仕上げた自己評価票を全員に渡している。職員各自前向きに取り組んでいる。今後、外部評価による指摘事項を含めて、改善すべき課題を検討することになっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、家族(少数)、区長、民生委員、地域包括支援センター、町役場職員に呼びかけ、ホームの状況報告や、意見、要望を受け入れた会議となっている。議事録を作成し、家族等に配布している。入居者、多くの家族に気軽に参加できるように呼びかけの工夫をし運営推進会議が有意義になるよう取り組みたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政に出向き、介護保険等の意見、相談の機会を設けている。職員が研修を受けており、行政からの依頼で地域に向けた認知症の理解を得るための研修会に管理者が講師として参加している。また、加美郡一円のグループホーム連絡協議会の発足の話や、緊急時の受け入れ要請があり、今後ともできる範囲で協力体制を整えていくとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書、写真、手紙を添えて送付している。支払は家族がホームに来所し、その際に話し合いをしたり、緊急、状態の変化時はその都度、電話で連絡している。個人の金銭は小口現金出納帳にて管理し、家族に確認のサインを得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所独自で家族アンケートを実施し、55%の回収率でおおよその方が満足されており、意見、要望等は特になく、感謝の言葉が多かった。家族の意見が少なく、それを吸い上げるために工夫したいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	このホームは入居者と職員のなじみの関係を重視し、職員の異動は最小限に抑えているが、年度内に管理者交替と新人1名の異動があった。それぞれ紹介をし、入居者は異動に特に不安な状態になることもなく生活している。家族には、来所時に紹介したり、会報にて報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に研修参加の機会があり、時間を設け参加した職員の報告会をすることで共有し実践にて取り組んでいる。資格取得の際の、研修参加時は公休とし交通費を支給している。また資格取得時は介護福祉士は一万円、介護支援専門委員は三万円毎月支給している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協会に加入し、全職員が県、中新田地区の研修会、交流会に参加している。加美郡のグループホーム連絡協議会の発足の話も出ている。相互交流、実践報告会に参加し、実践に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に訪問し、本人がなじめるよう配慮しながらの入居を考えているが、状況により早急な入居を余儀なくされることがあった。入居後なるべく早くホームになじんでいただけるよう、その担当者が中心となり、本人、家族から情報を引き出し、対応し、安心して過ごせるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者間でお互いの健康を気遣う場面や、一人ひとりの得意とするところを引き出しあったり、調理のコツ、行事、慣習に関することを教え合ったり場面に応じて、ねぎらい、感謝の言葉が入居者、職員から聞かれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の実態調査と日常の記録、入居者同士の会話に耳を傾けたり、何を望んでいるか関心を向けるようにしている。これまでもお墓参りや入居前に住んでいた故郷訪問をしている。また、喫煙を望まれる方には所定の場所を設けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実態調査をもとに本人、家族の要望、医師等の意見を取り入れ、介護記録を参考にすべての職員と話し合いを持ち具体的な介護計画書を作成している。計画書に基づいた対応について、朝のミーティングにて話し合わせ、さらに、月毎の会議にて検討している。介護計画書は本人、家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングをして、3か月毎に評価、見直しをし記入している。急変時、状態変化の際は必要に応じて介護記録を参考に本人、家族及び関係者(医師等)と話し合いを持ち現状に即した新たな計画書を作成している。それを家族、本人に説明し承認を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の通院、必要に応じた外出、外泊等必要に応じて柔軟に対応している。利用定員3名(実利用者1名)週3回のデイサービスに受け入れをしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の多くは協力病院を受診し、通院時の対応は主に職員が付き添い、受診時の情報はその都度、家族に連絡している。専門医療機関(耳鼻科、整形、内科等)の連携も良好である。今月より、田尻町にある認知症専門医療機関を利用するとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	このホームは入居者の「最後の看取り」に関する指針を関係者(医師、看護師、介護支援専門委員、職員等)で話し合っ成文化した。その指針は職員に周知し運営推進会議で報告している。今後は家族にも説明し、家族の協力を得ながら対応をしたいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人を尊重し、一人ひとりの思いや行動を否定することなく受け入れ、さまざまな場面で声掛けの工夫、居室の入出時や来訪者等に配慮し対応している。「ちょっと待って」は控え、速やかに寄り添うよう職員間で意識している。個人情報、帳票類は事務所内に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の様子、介護記録等をもとに本人のペースを把握し、一人ひとりの生活を見守り対応している。食事が終わると草取りに外に出られる方、部屋でテレビを見られたり、リビングで過ごされ歌を歌うなど時間の流れに沿って自然体で過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の身体機能の低下がみられるが手伝うことはないかと声をかけてくれることもあり、できることを引き出しながら職員とともに準備、後片付けをし、食卓を囲み同じ食事を摂っている。ちらし寿司、七草かゆなど行事食にしたり、ホットプレートで焼きそば、お好み焼きを焼いたり、お弁当をつくりピクニック気分を味わっていただいたりと工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ全員(リフト浴2名)が毎日入浴され、10時から16時30分と入浴時間も長く好きな時間に入れるようにしている。着脱が面倒で入浴をいやがる方には声掛けを工夫し対応している。状況に応じて清拭、手浴、足浴を取り入れ、ゆず湯等喜ばれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴、介護記録等情報をもとに対応し、掃除機かけ、畑仕事、草取り、洗濯物干し、たたみ方、果物や野菜の皮むき、塗り絵、折り紙、カラオケ、ボーリングゲームなど出来ることを負担にならず楽しみながら参加し、時には職員が黒子となり支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事担当者が年間の計画を立て、それに伴い実施している。季節に応じて、花見、紅葉、白鳥見学や近場の観光地、なじみの店に買い物に行ったり、外出の機会が多く、その都度写真を撮り、本人、家族に渡している。車イス対応の車も購入し活用している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけないことの主旨を理解し、日中、玄関は鍵をかけず、来客対応などのためにメロディーが流れる。職員は入居者の状態を把握し見守り対応し、近所にも協力していただけるようお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署が立会い、夜間を想定した訓練を入れ実施している。災害対策に関するマニュアルを作成し、すべての職員に周知徹底している。備蓄(米、水その他2~3日分)備品としてランタン型照明器具、乾電池を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は、食材宅配業者の管理栄養士がたて、食材が届けられる。食事の摂取状況、水分を把握し、疾患等による制限食、代替食、刻み、とろみ等、医師と連携を取りながら状態にあわせて対応している。月1回の体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地には畑、季節の花が植えてありゆったりとした木造づくりである。温かさを感じる建物は光がいっぱい差し込み、定期的に窓を開け、換気するなど配慮している。広縁にはソファが置かれ猫が寝そべっていた。壁には入居者の作品や、写真が貼られ、明るいきらびでゆったりと入居者、職員は過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室、畳が敷かれ、収納のスペースがありすっきりと整理されている。ベッド、タンス、ちゃぶ台、こたつ、テレビなどなじみの品が持ち込まれ、壁には思い出の写真が飾られ思い思いの部屋作りをされ、過ごしやすい居室づくりをしている。		